



PROFILE

1949年5月17日生、福岡市出身、福岡県立修猷館高等学校卒、京都大学法学部卒。1973年通商産業省に入省、1987年外務省経済協力開発機構日本政府代表部一等書記官、1990年同参事官（在パリ）。2001年内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補室）、2003年経済産業省産業技術環境局長、2004年特許庁長官、2006年内閣官房知的財産戦略推進事務局長、2007年内閣官房内閣広報官。2011年4月福岡県知事選挙に初当選、2015年4月福岡県知事に再選。趣味は読書、スポーツ観戦、音楽鑑賞。

す。そういう意味では、職場での男女共同参画に向けた取り組みといえます。社会のいろいろな分野において、男女それぞれが求められている役割や期待されている活動、共に努力して果たしていくのが本場の男女共同参画社会ではないでしょうか。

そして、究極の目標は、女性が自然に活躍している社会です。それが経済の成長・発展の基盤となり、企業発展の礎となつて、社会的な好循環を生み出していきます。

「子育て応援宣言企業」の登録数は、今年中に6000社を達成する勢いです。そうした中で、私自身が心強く思っているのは、宣言企業の育児休暇取得率が96パーセン

トを超えていることです。さらに、宣言企業間でメリットのあるサービスを相互に提供し合うなど、その輪は広がっています。

さらに宣言企業には、人材採用面で優秀な人材が応募してくるなどの好循環も生まれています。

「イクボス」「イクメン」など男性の意識改革も必要

今年6月1日に、「女性の活躍推進」に賛同する経済団体や関係団体など多様な主体が一体となつた官民連携の推進母体となる「福岡県女性の活躍応援協議会」を設立しました。

この協議会では、構成団体が自ら率先して女性の活躍に取り組ん



男性管理職のための女性活躍推進セミナー

でいただくよう働きかけていきたいと思つています。また、互いに情報を交換したり、共有したりして、それを傘下の団体や企業に周知していただくことで、女性活躍を促進していきたいと考えています。

女性がもっと活躍できる社会にしていけないと、地域の発展は望めません。社会や家庭のいろいろな機会や場面で、男女が共に対等な役割を果たしていく環境整備は、大変重要です。

現状では、職場において管理職は男性が多い点を踏まえ、部下やスタッフの仕事と生活の両立を考慮して応援する上司である「イクボス」や、子育てする男性（メンズ）である「イクメン」を増やすなど、こうした男性の意識改革も併せて

「福岡県は、もっと元気で住みやすい県になる」

女性の本格的な活躍推進は、いま始まったばかりといえるでしょう。今後、コツコツと着実に進めていく必要があります。

女性の皆さんは、自分の身の回りで活躍している女性の姿を自分の目で見て、「あの人のようになりたい」「私も後に続こう」「自分ならこうする」と自ら考えてもらえることが大事だと思います。

また、いま活躍している女性の方々は、ご自身が社会的なロールモデルになっている点に気づき、意識していただければと思います。引き続き、県でもいろいろなロールモデルを紹介していくことで、後に続く女性をもっと増やしていきたいと考えています。

一方、男性においても、イクボスやイクメンのロールモデルは重要です。私たちの周りには、活躍している人や、これから頑張ろうとする人が大勢います。そういう人たちの取り組みをよく見て、自分自身でも実践して、大いに頑張りたいと思います。福岡県では、そういう方々が活躍できるような環境を整えていきます。

福岡県民の皆様、お一人おひとりが各分野、それぞれの立場で頑張っていたら総和が、福岡県の活力や元気の良さにつながっていきます。皆さん！一歩足を前へ踏み出し、それぞれの分野で自分自身の全力を尽くしてください。福岡県はもっと元気で住みやすい県になっていきます。

女性活躍や子育て応援、男女共同参画で福岡県はもっと元気で住みやすい県になる

福岡県知事 小川 洋氏

少子高齢化が進展 女性の活躍が福岡県発展の鍵

今日の日本では、少子高齢化が進んでおり、生産年齢人口（15歳以上・65歳未満人口）は昨年10月時点で7800万人弱まで減少しています。

今後、ますます少子高齢化が進んでいくと、労働人口は減少を続けて、イノベーションなどの技術革新だけでは、経済成長は難しくなっていくでしょう。それぞれの地域が活力を持って発展を図っていくためには、女性がその能力を存分に発揮し、社会で活躍していただくことが重要です。

人口を男女で比較した場合、全国では50歳代から女性が、男性を上回っています。これに対して、福岡県は、20歳代から女性が男性より多い人口構成となつてい

また、民間調査によると、福岡県の女性社長は、この5年間で約5200人も増えました。福岡県内の企業のうち8社に1社が女性社長で、東京都（14・3%）、神奈川県（13・2%）、兵庫県（13・0%）に次いで、全国4番目が福岡県（12・9%）となっています。

今後の福岡県の発展は、女性がカギを握っているとも言えます。

女性の感性や発想で新たなマーケットを創出する

「潤い」「生活の質」「安らぎ」「温かさ」などは、これからの市場や産業を考えた場合のキーワードになると思います。今後、このようなマーケットニーズに応えられる企業や産業が発展していくでしょう。

これらのカギを握っているのは、まさに女性です。女性の視点、感性、発想、気配りなどの強みを最大限に生かしていくことで、新しいマーケットが生まれ、活動分野も広がっていくとみています。

現に福岡県は活躍している女性が多いだけに、私としては、女性

男女雇用機会均等法施行から30年後にあたる今年・2016年4月に、女性活躍推進法が全面施行されて、女性活躍を促進させる動きのさらなる加速化が期待されている。

全国的にも先駆けとなる「子育て応援宣言企業」登録制度や、今年6月に官民連携の「福岡県女性の活躍応援協議会」を立ち上げるなど、福岡県は、男女共同参画や、女性活躍の推進に先進的に取り組む県として注目されている。

「県民幸福度日本一」を掲げて県政の舵取りをする小川洋・福岡県知事に、男女共同参画の基本的な考え方や女性活躍への思いをインタビューした。

内企業のうち8社に1社が女性社長で、東京都（14・3%）、神奈川県（13・2%）、兵庫県（13・0%）に次いで、全国4番目が福岡県（12・9%）となっています。

今後の福岡県の発展は、女性がカギを握っているとも言えます。

女性の感性や発想で新たなマーケットを創出する

「潤い」「生活の質」「安らぎ」「温かさ」などは、これからの市場や産業を考えた場合のキーワードになると思います。今後、このようなマーケットニーズに応えられる企業や産業が発展していくでしょう。

これらのカギを握っているのは、まさに女性です。女性の視点、感性、発想、気配りなどの強みを最大限に生かしていくことで、新しいマーケットが生まれ、活動分野も広がっていくとみています。

現に福岡県は活躍している女性が多いだけに、私としては、女性



ふくおか女性いきいき塾の講義風景

がもっと活躍できる環境整備に向けて、今後さまざまな施策を打ち出していくつもりです。

そのためには、まず県が率先垂範すべきだと考えて取り組んでいます。たとえば、私の知事就任前に21人だった課長クラス以上の女性幹部職員は、今年4月時点で54人になっています。また、副知事として昨年、一般行政職の生え抜きで、3人の子育て中の女性を登用しました。また、各種審議会の女性委員の割合も高くなっており、農業委員会においても女性委員の登用を促進しています。

これらに加えて、社会における環境の整備にも取り組んでいます。女性リーダーを育成するため、「ふくおか女性いきいき塾」を2012年度に開設しました。これまでに4期122名が卒業され、そのうち2名が市町議員に就任するなど各分野で活躍されています。

公共工事の入札でも、女性の活躍推進に熱心な企業に加点してインセンティブにするという先駆的



子育て応援宣言企業 5000 社大会 (2015年1月)

な制度を導入しています。

全国的な先駆けで好循環を生む「子育て応援宣言企業」登録制度

女性が社会で活躍できる環境整備を考えた場合、就職後の妊娠・出産・育児の時点で離職される方が多く、就業率が下がるといわれるM字カーブが改善されつつあるものの、課題となっています。

福岡県では、従業員が職業経験を中断することなく、子育てをしながら働き続けられる社会の実現を目指しています。経営トップ自らが従業員の仕事と子育ての両立を支援する取組を宣言して、それを県が登録する「子育て応援宣言企業」登録制度を2013年9月から全国に先駆けて実施しています。この制度は、M字カーブの谷の部分で浅くしていくための取り組みでもありです。

宣言内容を各職場で意識して実践した結果、社員のパフォーマンスが上がった事例も数多くありま